

本校研究主題 「共に学び、共に感じ、共に高めあう生徒の育成」
～表現活動の充実を通して～

特別支援教育研究主題

「基礎的な知識・技能を身につけ、表現する力の育成」
～生徒一人一人が意欲を持って臨める手立ての工夫～

1 単元名 「9月の行事予定表を作ろう。」

2 単元について

(1) 単元観

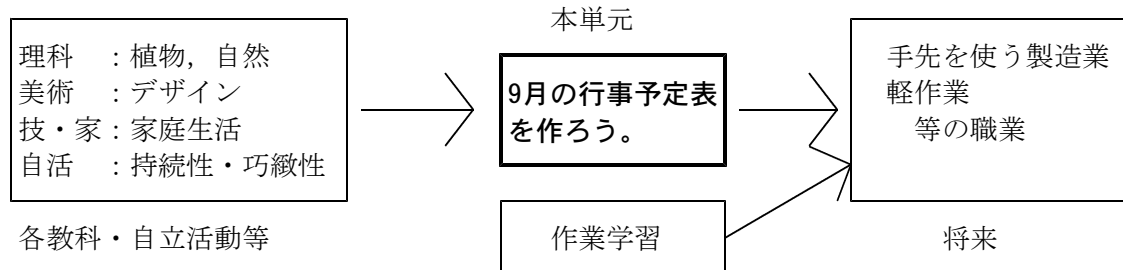
特別支援学校学習指導要領、総則の中に「各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部を合わせて指導を行う場合には、各教科、道徳、特別活動及び自立活動に示す内容を基に、生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。」とある。また解説には「生活単元学習は、児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものである。生活単元学習では、広範囲に各教科等の内容が扱われる。児童生徒の学習活動は、生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切である。」と述べられている。

本単元は上記概念に則り、①手先の巧緻性を高めること②集中して製作が続けられること③季節感や自然の風物・社会的な風習や慣わしへの関心を高めることを重点にして設定した。

本単元の行事予定表作りは、本校の特別支援学級が継続的に行ってきたもので、廊下掲示された行事予定は全校生徒の目に留まり、予定を知らせる上で重要な働きをしている。本校特別支援学級は2学級あり、4人の生徒での共同制作となる。3年生が予定表の線引きをし、1年生が飾りを作り予定を書き込むという分担で製作している。季節感を表すものは植物や月々の習慣的行事などを学習し、知識として定着させたい。飾りの製作は、折り紙を折ったり、切ったり貼ったりという活動が多く、手先を使うことで巧緻性が高まることが期待できる。また、活動は種々あるので、集中力が弱まってきたら別の活動へと切り替えられる。

行事予定表が全校生徒の役に立っている、自分たちの作った作品が発表の場を得て見られているということで、特別支援教育研究主題「基礎的な知識・技能を身につけ、表現する力の育成」～生徒一人一人が意欲を持って臨める手立ての工夫～に迫りたいと考える。他を意識する気持ちもあわせて指導することで、対人関係に不安のある生徒の社会性高揚の場としても行事予定表作りを活用していきたい。

(2) 指導内容の系統性



生徒の実態を考え、手工芸に重きを置いている。糊付けは適量をのばすこと、線を定規に沿って引くこと、線に沿ってはさみで切ること等、まだ未発達の部分もあるので、本単元を学習することで総合的に力をつけていけるものと期待する。将来的に支援を受けながらではあるが、製造業の一端を担えるまでの集中力や持続力をつけたいと考える。手先の巧緻性や作業能率を高めることはもちろんであるが、粘り強く継続して作業できる精神力も養いたい。

(3) 生徒の実態（1学年女子1名）

在籍1名の学級である。小学校では複数人数で過ごしたこともあったが、中学校入学からは自閉症・情緒障害特別支援学級在籍としては一人で、音楽・美術・保健体育はマンツーマンの指導を受けている。知的障害特別支援学級には3名の生徒がおり、朝の会、帰りの会、給食は共に過ごしている。

その他作業学習や教科の学習は知的学級の生徒の動きで人数や生徒が変わるが、共に学習している。本来、素直でまじめではあるが、障害の特性で気持ちの浮き沈みがあり、意欲的な態度を望むことは難しい。「なんで〇〇なの？」と禅問答の繰り返しが多い。動きも緩慢で指示が1回では通らない。生活全てにおいて支援が必要で、自分でできることを増やしていく過程にある。

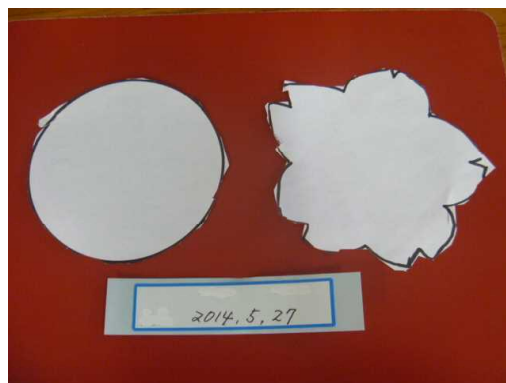
言語の理解状況は、具体的なことは理解できるが、抽象概念の理解には至っていない。聞いて理解するよりも視覚に頼ることが多く、書いた物を見て確認している。漢字は小学校中学年までの読みはできる。書き取りは低学年程度であるが、漢字練習をよく行い、習得を心掛けている。数学は、数の概念が完全には形成されておらず、掛け算九九も6の段に挑戦している。その時点では理解できても、時間の経過とともに記憶から抜けてしまい、繰り返し学習しているところである。

普段の清掃や給食の配膳・後片付けも教師の声かけで取り組んでいる。大好きな「嵐」やゆるキャラの話で気分が高まると取り組みも前向きになることが多い。

これまで5月、6月、7月の行事予定表を製作してきた。折り紙では辺と辺を合わせてきっちり折ることがだんだんできるようになってきた。山折りを開くのはまだ難があるが、長い時間続くようになった。線に沿ってはさみで切ることは写真の通り、曲線に沿うことはできるが正確ではない。

断片的な知識は豊富で、5月、兜（かぶと）を折り紙で折った時「5月5日は男の子の節句。節句って何？」と内容についてはわからないまでも、日常見聞きしていることへの関心はある。6月にアジサイを折ったので、その発展として7月にアサガオを作ったが、季節感にはこだわりがあり、「7月は七夕。」と強く主張していた。

その興味・関心を大切にしながら、手作業をすすめ、季節感あふれる行事予定表を作っていきたい。



3 単元の目標

- (1) 製作目標に向かって一生懸命に取り組むことができる。 (関心, 意欲, 態度)
- (2) 製作手順や段取り, デザインを考え, 効率的に進めることができる。 (思考, 判断)
- (3) 60枚の月を美しく製作できる。 (技能)
- (4) 9月の風物がわかり, 生活とのかかわりを感じることができる。 (知識, 理解)

4 指導計画 (6時間扱い 本時は3時間目)

時間	学 習 内 容	支援及び指導上の留意点	評価基準 (観点)
1	製作計画・目標を立て, 工程を確認する。 メインの製作物を何にするか決める。	季節を表す物を考えさせる。思いつかないようならヒントを与える。	9月の風物を思いついたか。(知識・理解)
4 本時 (2/4)	工程の作業をすすめる。 ① 表の線引き (3年) ② 「月」部分を作る。 ③ 「月」を糊付けする。 ④ 月予定を書き込む。	3年生が表を作ったことを知らせ, 感謝の気持ちをもたせる。製作に集中して取り組めるよう, 学習態度を観察し, 課題の変更をする	集中して「月」を美しくたくさん作ることができたか。 (関心・意欲・態度)(思考・判断)(技能)
1	予定表を掲示し, 製作のまとめをする。	出来上がりを賞賛する。	自己評価ができたか。(思考, 判断)

5 本時の指導

(1) 目標

- ①集中して「月」の製作ができる。 (関心・意欲・態度)
- ②正確に切り、きれいに張り合わせて「月」をたくさん作ることができる。 (技能)

(2) 教科研究仮説との関連

教科仮説

- ① 各教科・日常生活の指導・生活単元学習を通して基本的な知識・技能を身につけると共に、発表の場面を工夫・設定すれば、生徒の表現しようとする意欲が高まるだろう。
- ② 各種行事(校内行事・茂原市中学校特別支援学級交流会等)を通して、発表の機会を多く経験させることにより、他を意識した表現力が身につくだろう。

本時の月予定表制作は①の基本的な知識・技能の習得に深くかかわっており、作品として全校生徒の目に触れ、発表の形をとれるので、意欲が高まり次の作品製作へとつながっていくことが考えられる。

(3) 展開

過程目標	学習活動と内容 ★は表現活動	○支援及び指導上の留意点 ◎評価(方法)	資料教具
○本時の目標と工程が確認できる。 (5分 個別)	1 ★前時までの製作を思い出し、本時の目標を決める。 (1)いくつ製作するか。 ・前時よりも多く。 (2)どこに気をつけるか。 ・線に沿って切る。 ・はみ出ないように糊付けする。 ・飽きないでがんばる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">きれいなお月様をたくさん作ろう。</div>	○今までの行事予定表や前時までに製作した物を見せ、製作を振り返らせる。 ○本時の製作数を決めるため、前時の製作数を知らせる。 ○良い物を作るため、良い例と悪い例を示す。 ◎目標が言えたか。(発表)	5・6月の行事予定表 良い月・悪い月
○自分の目標に向かい、「月」の製作を進めることができる。 (40分 個別)	2 作業の準備をする。 (1)下に敷く紙、月の用紙、はさみ・のり等をテーブルに持っていく。 (2)月を線に沿ってていねいに切り取る。 (3)台紙に切り取った月を重ねて貼り合わせる。	○作業テーブルに移動し、作業に使う道具や小物を用意させる。すばやく準備できるように声かけをして促す。 ○手順に従い、集中して取り組ませる。 ○細かい作業は集中して行うよう声かけをする。 ○のりが他の場所に付かないように気をつけさせる。 ○切る作業に飽きたらりのり付けの作業へと変えて、集中力を高める。 ◎作業に集中して黙々と取り組んだか。(観察)	台紙, 用紙, はさみ, のり
○後片付けと反省が発表できる。 (5分 個別)	3 道具を元のあった場所にもどす。 ★作った数と作業中気をつけたことを発表する。	○用具を返せるよう、明確な指示を出す。 ○目標を再度確認する。 ○数, 気をつけたことを当初の目標と比べさせる。 ○取り組みを誉め, 次時への意欲を喚起する。 ◎目標に照らし合わせて, 反省ができたか。(発表)	

